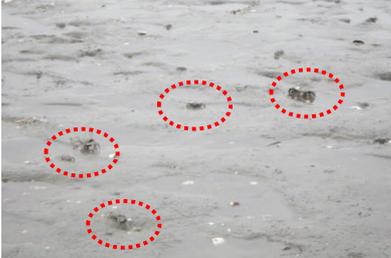


東京都内湾水生生物調査

地点名	多摩川河口干潟	調査年月日	令和2年6月19日	7:58 ~	8:46
<調査地点>		<底質状況、底生生物出現状況>			
		 <p data-bbox="1204 302 1476 470">多摩川左岸側(東京都側)の海老取川河口付近の干潟で調査を行った。調査地点周辺では護岸工事が行われていた。</p>			
<p data-bbox="231 638 630 672">● 水温(°C) ● 塩分 ● 酸素量(mg/L)</p> <p data-bbox="231 862 255 929">水深(m)</p>		<p data-bbox="1053 683 1452 716">※令和元年6月2日の同地点の状況</p>  <p data-bbox="662 985 1045 1041">干潟上には、粘土や礫が点在し、様子は昨年度までと異なっていた。</p> <p data-bbox="1061 985 1444 1064">昨年度は調査地点のすぐ岸側に鋼矢板が設置されていたが、今年度は撤去されていた。</p>			
※写真のスケール1目盛:1mm		※写真のスケール1目盛:1mm			
<p data-bbox="247 1164 383 1198">底質の状況</p> 		<p data-bbox="670 1164 885 1198">ふるいがけ後の状況</p> 		<p data-bbox="1085 1164 1220 1198">紐型動物門</p> 	
<p data-bbox="231 1433 534 1467">底質は砂が主体であった。</p>		<p data-bbox="654 1433 1037 1489">ふるい上には、昨年度までとは異なり小礫が多く残った。</p>		<p data-bbox="1061 1433 1476 1579">ふるい上で確認できた生物は、紐型動物門のみであった。文字通り、紐状の生物で、とてもちぎれやすい。肉食性で生きた多毛類などを捕らえて食べる。</p>	
<p data-bbox="247 1568 790 1601">※以下は昨年度の同時期の調査結果である</p>					
<p data-bbox="446 1624 582 1657">ヤマトシジミ</p> 		<p data-bbox="670 1624 805 1657">ヤマトシジミ</p> 			
<p data-bbox="231 1892 1045 2038">昨年度の同時期の採泥試料は、ふるいがけ後、貝殻片が多く残り、小礫はほとんどみられなかった。また、様々な大きさのヤマトシジミが採取され、新規加入した稚貝もみられていた。今年度は昨年の台風による2度の出水の影響からか、ヤマトシジミはふるい上では確認されなかった。</p>		<p data-bbox="1061 1892 1476 2027">干潟上には多数のヤマトオサガニがおり、数多くの巣穴も観察された。今回の調査では、巣穴を含めヤマトオサガニは確認されなかった。</p> 			

東京都内湾水生生物調査

地点名	St.31(多摩川河口)	調査年月日	令和2年6月19日	9:08 ~ 9:46
-----	--------------	-------	-----------	-------------

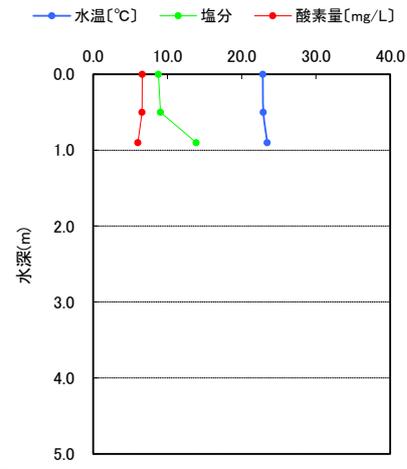
<調査地点>



<底質状況、底生生物出現状況>



多摩川河口から1.5km付近の浅場で調査を行った。昨年度までは、川に立ち込んで採泥を行っていたが、今回は水深が1mとやや深かったため、船上からスミスマッキンタイヤ型の採泥器を用いて採泥した。



ふるい上には、貝殻片が残った。

※写真のスケール1目盛: 1mm

底質の状況



底質は細砂で、シルト(柔らかい泥)はほとんど混じっていなかった。

採泥状況



水深が浅く、底質が細砂主体であるため、20kg程もある重いスミスマッキンタイヤ型の採泥器を使用した。

シオフキガイ



殻長5cm程になる。砂質底の潮間帯から水深20m程に生息する。殻の色は白色から紫褐色まで変異が多い。

ソトオリガイ



殻長5cm程になる。淡水の影響の強い干潟の砂底から砂泥底にやや深く潜って生活する。殻は白色や半透明で非常に薄く、壊れやすい。

アサリ(稚貝)



殻長4cm程になる。潮干狩りなどで盛んに獲られている代表的な二枚貝。東京湾のものは形が細くて、模様コントラストが強いものが多い。今回は、稚貝が主体で個体数は少なめであった。

ムロミスナフシナナフシ



体長2cm程になる。細長い円筒状の体をしており、白地に褐色の斑紋がある。干潟の表層部に巣穴を掘って生活する。

東京都内湾水生生物調査

地点名	森ヶ崎の鼻	調査年月日	令和2年6月19日	10:26 ~ 11:01
-----	-------	-------	-----------	---------------

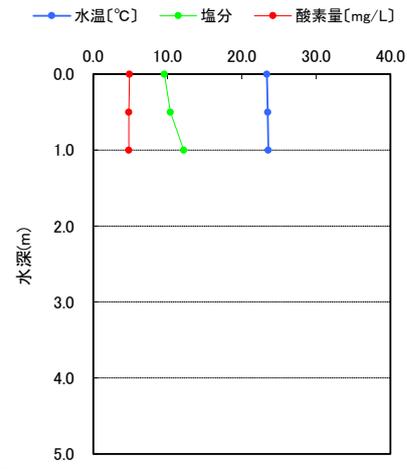
<調査地点>



<底質状況、底生生物出現状況>



羽田空港の北側に残された干潟。干潮時でも周りは「海」に取り囲まれているため、岸から歩いて入ることはできない。



ふるい上には様々な種類の貝殻片が多数残った。

※写真のスケール1目盛:1mm

底質の状況



底質は砂であり、締まって硬かった。そのため、干潟を歩いてもぬかるむことはなかった。

採泥状況



小型の採泥器を用いて干潟で直接採泥を行った。底質が締まって固いため、採泥器が砂に食い込みにくい。

紐形動物門



多摩川河口干潟でも確認された紐形動物門。紐状の生物で、とてもちぎれやすい。

ヤマトシジミ



殻長4cm程になる。河口干潟など、淡水の影響の強い、砂底から泥底に生息する。日本産シジミは3種類いるが、最も馴染み深い種である。

ホトギスガイ



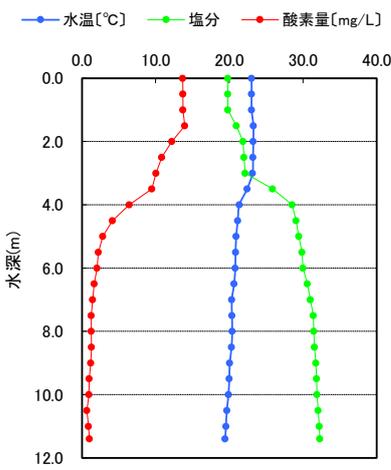
大きなものは殻長3cm程になるが、2cm程のものが多い。干潟から水深10mの砂泥底に生息する。写真のように長く伸びた足糸で泥に捉まったり、近隣の個体同士で互いに足糸を絡ませて、泥の表面をマット状に覆うことがある。

ミスヒキゴカイ



砂泥干潟や浅瀬の海底に潜り、細い糸のような鰓と触手を水中に伸ばしていることが多い。名前の由来は、鰓と触手を水引(祝儀袋等に用いられる飾り)に見立てたもの。

東京都内湾水生生物調査

地点名	St.6	調査年月日	令和2年6月19日	13:12 ~ 13:44	
<p><調査地点></p> 		<p><底質状況、底生生物出現状況></p>  <p>東京港フェリーターミナルの正面で採泥を行った。航路であるため、水深は11.0mと深い。海底付近の酸素量は0.7mg/Lと貧酸素状態(2.0mg/L以下※)となっていた。 ※出典:貧酸素水塊速報</p>			
 <p>● 水温[°C] ● 塩分 ● 酸素量(mg/L)</p> <p>水深(m)</p>		 <p>ふるい上には、貝殻片が残った。</p>			
<p>※写真のスケール1目盛:1mm</p>					
<p>底質の状況</p> 		<p>泥臭の確認</p> 	<p>シノブハネエラスピオ</p> 		
<p>底質の性状は、シルトであった。貧酸素状態となっており時間が経過していないため、表面の泥は灰色であった。なお、泥の中は黒色(還元状態)であった。</p>		<p>採取した底泥の臭気を確認すると、わずかに硫化水素臭(腐った卵のような臭い)がした。</p>	<p>3対の鰓がある。ハネエラスピオの仲間は日本では4種類が知られ、本調査ではこれまでシノブハネエラスピオとスベスベハネエラスピオの2種類が採取されている。シノブハネエラスピオは、貧酸素耐</p>		
<p>コウロエンカワヒバリガイ(死殻)</p> 	<p>ムラサキガイ(死殻)</p> 	<p>シズクガイ(死殻)</p>  <p>チヨノハナガイ(死殻)</p>			
<p>本調査地点では、多くの死殻が採取された。多かったのが、コウロエンカワヒバリガイ、ムラサキガイ、チヨノハナガイである。コウロエンカワヒバリガイとムラサキガイは、東京湾では代表的な付着生物で、港湾の防波堤等に高密度に付着する。チヨノハナガイは、殻長1.5cm程の二枚貝で、貧酸素水塊でも酸素がある期間に短期的に発生することが知られている。</p>					

東京都内湾水生生物調査

地点名	三枚洲(荒川河口)	調査年月日	令和2年6月19日	11:59 ~ 12:54
-----	-----------	-------	-----------	---------------

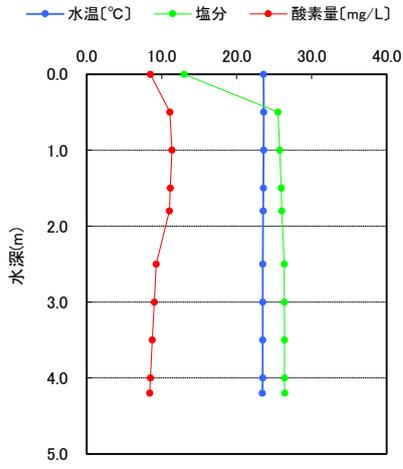
<調査地点>



<底質状況、底生生物出現状況>



荒川と旧江戸川の河口に残された天然の浅場。調査時の水深は5.2mであった。すぐ横は、東京ディズニーリゾートである。



ふるい上には、貝殻片と植物片が残った。

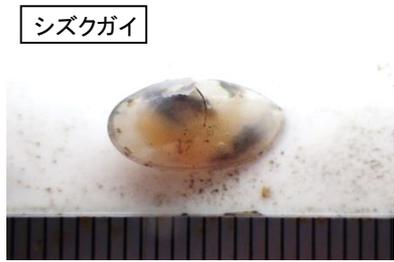
※写真のスケール1目盛: 1mm



底質の性状は、シルト主体であった。昨年度までは、同調査地点の底質は細砂であったが、今年度はシルト主体であった。これは、昨年の台風による2度の出水の影響により、底質が変化した可能性がある。



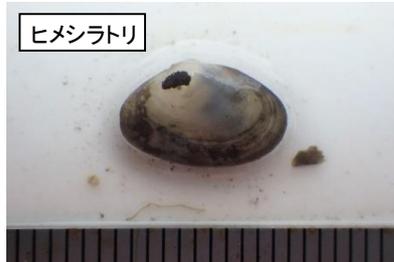
※昨年度の底質



シズクガイ
殻長1.5cm程の長卵型の二枚貝。殻の表面は平滑で白色がかった透明である。非常に薄いため、脆く壊れやすい。



チヨノハナガイ
殻長1.5cm程の二枚貝。内湾の泥底に生息する。殻は非常に薄いため、もろく壊れやすい。シズクガイと同所的に出現することが多い。



ヒメシラトリ
殻長3cm程の二枚貝。内湾の泥底に生息する。泥の中に潜り、長い水管をのばして水中の有機物を吸い込んで食べる。



チロリ属
頭
体長10cm程になる。4つの鋭い牙(顎)がついた吻(ふん)を『ちろり』と出して、干潟の小動物を捕らえる。写真の個体の吻は、体内にしまい込まれている。